

## デンマーク体操の歩み (3)

—体操ホイスコーレの台頭と多様化する身体文化—

高井久光      工藤亘

玉川学園・玉川大学  
健康・スポーツ科学研究紀要  
第15号

## ■研究資料■

### デンマーク体操の歩み（3）

#### -体操ホイスコーレの台頭と多様化する身体文化-

高井久光\*<sup>1</sup> 工藤 亘\*<sup>2</sup>

#### 要約

オレロップ体操ホイスコーレ、スノーホイ体操ホイスコーレが指導的な立場にあった1950年頃までの時代、それ以後多様化する身体文化の一部として発展したデンマーク体操の歩みをまとめた報告である。

#### 1.N・ブックとオレロップ体操ホイスコーレ

スウェーデン体操の普及には地域社会で体操指導をする小隊指揮官(delingsfører)の養成が決定的な意味を持っていた。その養成コースがいくつかのフォルケホイスコーレに設けられていた。1920年には、小隊指揮官(体操指導者)養成を専門とするオレロップ体操ホイスコーレ(現オレロップ体育アカデミー)がN・ブックにより創立された。

それに先駆けブックは、1914年にオレロップホイスコーレを設立し、最初の冬コースに12名の若者が参加した。その後年ごとに学生数が増え、1920年にオレロップ体操ホイスコーレを設立したときには90名の学生を収容出来る宿泊教育施設が用意された。その後何回か増築され学生数300名まで拡張され体育施設も拡充された。大グランド(1923年)、デンマークではじめての屋内プール(1926年)、屋外プール(1931年)、北ヨーロッパ最大の体育館(1933年)、観客収容能力5万人の大グランド(1935年)、大体操場(1939年)が建設された。

ブックの体操はボランタリー体操組織だけではなく学校、軍隊そして外国にも普及した。彼のもとで体操を学び指導した人々の幾人かは体操・体育ホイスコーレを設立した。ブックのもとで17年間体操教師を勤めたK.コースヘー

デは1938年にギャーロウ体育ホイスコーレを、オレロップ体操ホイスコーレを卒業したS.A.トムセンは1943年にユトランド体育学校をそしてオレロップで30年代に教師を務めた。M.ニールセンは1951年にビボー体操ホイスコーレを創立した。

ブックの国際活動は、前期ストックホルム・オリンピック(1912年)に参加した競技チームの監督に始まるが、1920年開催のアントワープ・オリンピックでも競技チームの監督をしている。その後、フランスとドイツで国際会議に参加。1923年にはUSAへ遠征し東海岸と西海岸で体操のデモンストレーションを行った。1924年開催パリ・オリンピックではデモンストレーションチームの監督、同年ドイツ各地で体操発表をした。以降、1926年、1927年、1929年そして1930年にヨーロッパ各地へ遠征し体操発表を行っている。

1930年秋、玉川学園創立者小原国芳がオレロップを訪れた。彼はブックの体操を高く評価し、1931年にブックを団長とする総勢27名の男女チームを日本へ招聘した。一行がソヴィエトと中国を經由して日本に上陸したのは1931年9月8日。全国40数カ所で行われた講演と体操実演会は、学校体育はもとより海軍、陸海航空隊、鉄道、商船など各方面の体育に大き

\*<sup>1</sup> Århus 大学 \*<sup>2</sup> 玉川大学

な影響を与えた。ブックのチームは、この後 USA を経由して帰国した。この4ヶ月に及ぶ世界一周旅行を終えたチームは、国会議事堂であるクリスチアンスポールに招待され国会議員に体操を披露した。これは、ブックが当時如何に高く評価されていたかを物語る出来事である。1933年から1939年まで毎年ブックは外国遠征をしている。1936年には、ベルリン・オリンピックへ参加。1939年には USA と南アフリカへ遠征したが、第二次世界大戦勃発間際に辛うじて帰国した。

オレロップ体操ホイスコーレの目覚ましい発展とブックの活躍の基礎となったのは1915年から1920年にかけて創案された基本体操である。基本体操はビョクスタインの体操の影響を受けている。ブックは、「基本体操はリングの体操が目指す目標に到達するための新しい方法である」と言っている。それまでのリングの体操は理論と実際が十分に一致していない。その原因は、リングの後継者たちがリングのアイデアを体操のシステムに閉じ込めてしまったためである。リングの体操の真髄にある合理性とアイデアを解放する鍵はテンポである。ブックはこう考え、それまでのスウェーデン体操には見られなかった力強く律動的な体操を考案した。ダイナミックな力強さと女性的な美しさを同時に表現する彼の体操は、体操の新たな発展に重要な貢献をした。

ブックは、農作業の重労働で歪められた身体を基本体操によって柔軟な正しい姿勢に戻し、同時に農民特有な“卑屈さ”をも正し、誇りを持った優秀な農村青年を育てたのであるが、その訓練は大変に厳しいものであった。「年間3000時間もの偏った作業は若者の姿勢と身体に悪影響を及ぼす。それを正す体操には高々50時間くらいしかないのだから、それなりの厳

しい訓練が必要なのは当然だ」と彼は説明している。ブックは徹底的に唯物的な原点に立った体操教育者であった。オレロップで体操を学んだ若者の身体と姿勢には明らかにその効果がみられた。それは、身体文化の確実な表現であり「ほとんどの場合、人格の描写として信頼できる」とブックは言っている。しかし、彼の体操を非難する人も多くいた。体操の生理学的基準を明確にし、運動の分類に関してその基準を作りあげた J.リンドハート教授もその一人である。彼は、「体を柔軟にするのは良いが、その柔軟な体を何に使うのかと言うことのほうがもっと大切だ」ブックの体操には思想がないと厳しく批判している。

ブックの体操を教えるオレロップ体操ホイスコーレの発展基盤をなしたのは農村青年とその背景にあるデンマーク農業であった。デンマーク農業は、19世紀の終わりから20世紀にかけて、強力な農業組合組織と優れた生産構造を構築し世界有数の農業国を築いた。この社会的に強い地位を持つデンマーク農業がブックの体操と青年教育を支持したのであった。

## 2.スノーホイ体操ホイスコーレ（1925-58年）

オレロップ体操ホイスコーレでは男女学生が学んだが、1925年に創立されたスノーホイ体操ホイスコーレは女性のための学校である。この学校の創立者 J.アビルゴーと A.クローは、ハドステインフォルケホイスコーレで“小隊指揮官”教育をうけた。創立当時の学生数は25名であったが、すぐに増えて冬コース約100名と夏コース150名になった。スノーホイ体操ホイスコーレの指導者たちは体操ホイスコーレの位置づけを学生の家庭と学校そして教会であることとし、それを重視した。1933年には、学校の敷地内に礼拝堂が建てられた。神の言葉を

礼拝堂で、“生きた言葉”を講堂で、そして“生きた体操”を体操場で学んだのである。

スノーホイは、デンマークの女子体操の中心となった。オレロップ体操ホイスコールのブックは、体操に関しては男女間に大差なしと主張した。一方、スノーホイの指導者たちは、女性の自然は男性とは異なるのであるから、女性と男性が必要とする体操は異なると主張した。そして、「女性は女性の体操をやらなくてはならない」というピョウクスタインの教えを守り、女性の自然を出発点とした体操を創った。スノーホイの体操は身体と精神の両方への効果を求めた。その体操は二つの目標を融合しなくてはならない。第一の目標は、筋力を鍛え且つ関節本来の自然な動きを取り戻すことにより、柔軟で敏捷で軽やかな動きと開放された伸びやかな姿勢を得ること。第二の目標は、持久力を鍛えることで精神力を鍛え「どんな問題にも、たとえそれが身体的に厳しくても立ち向かい解決できるような人間になる。」ことであつた。

開放とコントロールという相反する目標を融合する動きは「稲妻のようにエネルギーに満ちていながら空を飛ぶ白鳥のように軽やか。」でなくてはならない。このような動きを学ぶための方法はリラクゼーションであつた。スノーホイの体操もリングの体操をその原点とするのであるが、その価値観に精神的な要素が強調された。これは、唯物的な原点に立つブックの体操思想と対照的である。スノーホイ体操は、体の動きを通じて“精神的なリラクゼーション”をも求めた。リラクゼーションは、彼女たちが最初に学ばなくてはならないことであつた。それは、“忍耐力”と“優しさ”と“従順さ”と“意志力”に表現される北欧女性の理想像に近づくための方法であり行程であつた。体操の動きと形は、生理学的及び解剖学的な基本原理に立脚す

るのであるが論理的かつ美学的な背景を大切にしなければならぬ。精神的要素は、フォルケホイスコールの体操に常に影響を及ぼしたのであるが、それはスノーホイ体操によって正に開花したのであつた。

### 3.20世紀中期以後（身体文化の多様化）

1950年代になると、ドイツの表現体操（全身体操）などの影響が都会の体操文化に顕著に窺えるようになってきた。中でも、表現体操を創始したボーデの弟子、メダウの体操はデンマークにおける体操の発展に重要な寄与をした体操である。メダウは、身体の全体的な動きを促進するためにボール、棍棒、リング（輪）などの器具を体操に取り入れた。それまで女子体操にはクラシック音楽を使っていたのだが、動きと音楽の緻密な調和を考慮した体操のための特別な音楽を開発したのもメダウである。

体操に音楽が必要か、という議論は1940年から50年代の大きな論争点であつた。オレロップとスノーホイの体操では指導者の号令は“神聖な”原則であつた。号令が弱々しければ体操もそれを反映して弱くなる一方、号令が力強ければ体操もそれを反映する。音楽は体操にリズムを与える。しかし、体操が感覚に支配されてしまう恐れがある。号令を通して伝える意志力で動きを統制するのか、あるいは音楽を通して伝えるリズムで動きを統制するか、この号令と音楽の問題は体操の伴奏にピアニストを使うことがなくなるまで続いた。ピアニストの伴奏による体操は、指導者に号令の余地を与えたからである。しかし、1970年代の後半になると、ほとんどの体操チームがカセットテープによる音楽を使うようになった。そして、次第に男子の体操にも音楽が使われるようになった。

1884年にデンマークに紹介されたスウェー

デン体操は姿勢強制・整形動作が基本であった。その後、ビョクスタインやブックらによりリングの体操は動きの体操へと発展し 20 世紀前半のデンマークにおける身体文化に大きな影響を与えた。

しかし 20 世紀後半には、身体文化に決定的な影響を与えたといえるような体操は現れなかった。メダウのリズム運動、クヌードセンの脱力運動など脚光を浴びた体操はあるが、身体文化に決定的な影響を与えたとは言いがたい。1950～1980 年に至る 30 年の間にリングの体操が築いた伝統はほとんど見られなくなった。

その説明要因として、リングやブックの体操を支えた農民の減少、農村文化と都市文化の差の減少、そして多種多様なスポーツの台頭が挙げられる。1930 年代には国民の約三分の一が農業に従事していたが、国の工業化に伴い農村から都市への人口流出が顕著に見られるようになった。特に、1960 年代の第二次工業化の波により農村人口の減少は加速され、1980 年には農業人口が 6%にまで減少した。農業の構造改革に伴い農家の経営は機械力を駆使した大型省力経営へと変化していった。また、女性の職場への進出というデンマーク社会の変化は農村にも波及し、農業以外の職業をもつ農村女性が増し、農家の生活様式も都会のそれと変わらなくなった。生活レベルの向上と公共スポーツ施設の充実に伴い、小さな地域社会でも多種多様なスポーツを自由に楽しめるようになった。

著しく多様化した身体文化を背景に、体と精神を鍛える手段として考えられていた体操も次第に多様化していった。競技出場あるいは代表チームのメンバーになるためにより高度な完成度を求めるスポーツとしての体操。フリータイムの娯楽・趣味あるいは交流の場として地

域のクラブなどでやる体操。そして、運動不足や肥満の対応策としてフィットネスセンターなどでやる体操。このように体操は多くの“顔”を持つようになった。

男子体操においては、跳躍転回運動が中心的な地位を占めるようになった。従来 of 考えでは、体操の中心は徒手体操であり、その結果として素晴らしい跳躍転回運動が出来るようになるのであった。しかし、跳躍転回運動の技術向上が目的になってしまい、徒手体操はその準備あるいは手段になってしまった。例えば、ミニトランポリンを使った運動はスポーツ的な要素を多く含んでいるが、1950 年代に紹介された当初はなかなか普及しなかった。当時の体操に関する伝統的な考え方とマッチしなかったからである。しかし、1970 年代になると爆発的に普及した。体操に対する考え方の変化を示す端的な例と言える。

女子体操においては、スノーホイの体操、メダウの体操、ジャズ体操などによって動きと音楽の結合は多様な発展をしたのだが、次第に音楽と動きの調和ということが女子体操の基礎になっていった。女子体操はバレーやダンスに近づき、次第に音楽的表現と言う考えが重要な地位を占めるようになった。

1980 年代以降の変化を見ると、男子体操においても音楽が重要な役割を果たすようになり、女子体操の影響が窺われる。また、男女が一緒に行う運動や跳躍転回運動を男子と一緒に演技する女子など、男女間の差が縮まった面が多く見られる。

一方、男子の跳躍転回運動技術は年毎に高度になっている。また、女子体操も高度な技術と完成度を要求する運動が増えてきている。これら体操技術の向上は、器具の工夫と改良によるところも多いが、国内外で開催される発



表会や技術会へ参加する地域体育協会あるいはデンマーク体操スポーツ協会(DGI)代表チームそしてオレロップ体育アカデミーなど体操・体育フォルクヘイスコーレを代表するエリートチームの貢献が大きい。

全国に約 240 校あるエフタースコーレと呼ばれる 14～18 歳の生徒を対象とする全寮制私立学校が大きな人気を集めている。多くのエフタースコーレは教育手段の中核に体操を置いている。共同生活、厳しい体操トレーニングそして皆で協力して完成させるマス体操とその発表など、思春期という迷いの年頃にある子供たちにとって効果的な教育手段だからである。

オレロップ体育アカデミーに代表される体操・体育フォルクヘイスコーレは過渡期にあるように思われる。入学希望者数が定員に満たないケースが多く見られるようになった。地域体育協会の指導者養成は体操・体育フォルクヘイスコーレの重要な役割の一つであるが、DGI など全国体操・体育組織のトレーナー養成制度でも多くの指導者を養成している。また、大学で体育・スポーツを専攻する学生も増えつつある。体操とスポーツを使った青年教育の有効性は誰もが認めるところであろうが、多くの選択肢を提供されている若者たちへ如何にアピールするかは体操・体育フォルクヘイスコーレが対峙する大きな課題である。地域の体育協会では今でも体操が行われているが、女性参加者が圧倒的に多い。全国の都市には多くのトレーニング器具を設置した私営のフィットネスセンターがいくつも開設され多くの人々が利用している。

#### 4.あしがき

デンマークでは学校単位の体育クラブの活動はほとんど見られないが、2014 年8月から施行された学校改革では、一日平均45分間の

運動が義務付けられている。体育の授業に加え他の授業を支援するメソッドとしての運動を導入することが求められている。コンピューター・ゲームなどの影響で子供たちの運動不足、また食生活の変化等の影響も加わり肥満児が大きな問題となっている。運動の学習能力向上効果も議論され、その効果は一般に認識されつつある。

地域体育クラブの活動にはもちろんサッカー、ハンドボール、バドミントン、水泳、ヨット、カヌーなど多くのスポーツが含まれているが、体操人口は今でもサッカー、ハンドボール、バドミントンを凌いでいる。デンマークにおいてもスポーツ競技への関心は高く、オリンピックや世界選手権の時は国を挙げて応援する。それでも、勝敗を争うことのない地味な体操を熱心に行う人がデンマークには今でも数多くいる。体操をすることの素晴らしさをデンマーク国民は体験として知っているからだろう。

#### 参考資料

- 1.橋本道(1957)、新しい体操、玉川大学出版部
- 2.Niels Bukh(1962)、Primitiv Grundgymnastik,sjette udgave,Gymnastikhojskolen i Ollerup
- 3.橋本道(1970)、基本体操、玉川大学出版部
- 4.Ove Korsgaard,1982:Kampen om kroppen-Dansk idrats historie gennem 200 ar.Gyldendalske Boghandel,Nordisk Forlag A/S,Kobenhavn,ISBN87-0031168-5
- 5.Hans Bonde.2003:Kampen om ngdommen,Niels Bukh-en politisk biografi,Museum Tusulanums Forlag,Kobenhavns Universitet.ISBN 87-7289-792-9